一般社団法人
日本建築学会

建築文化週間2022

トウキョウ
建築まち歩き

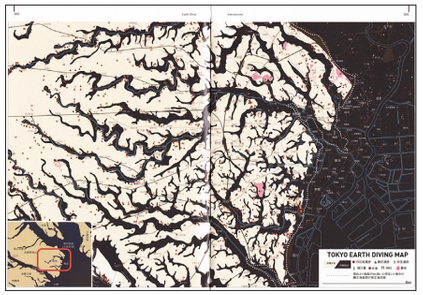
麻布・飯倉

http://bunka.aij.or.jp/machiaruki/

登って下って麻布・飯倉

縄文の風景｜5,500年前

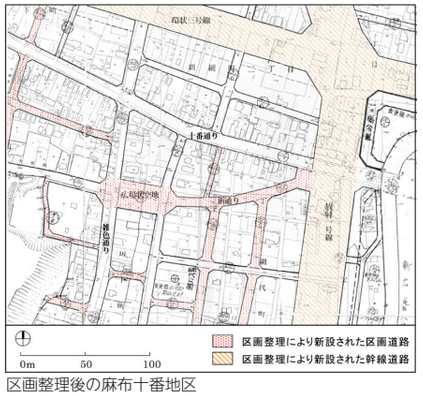
中沢新一の著書『アースダイバー』（2005年、増補改訂2019年、講談社）には、Tokyo Earth Diving Mapと題したちょっとシュールで魅力的な図が収録されている。画面の右が濃厚な青紫色、そこから左側のベージュの部分に、曲がりくねり枝分かれしたいくつもの“触手”が奥深くのびている。凡例では、ベージュの部分は武蔵野段丘の東端部の「洪積台地」、青紫色の部分が「沖積低地」とある。青紫色が東京湾に及んでいて、海面の上昇（海進）があった縄文時代の海と陸に見える（図は人の暮らしがその境界に集中したことを示したもので、遺跡や墳墓、神社がプロットされている）。沖積低地のすべてが海だったとは考えにくいが、洪積台地の谷がより深く、土砂の堆積よりも海進が早かったとすれば、かなりのところまで海は来ていただろう。麻布台地と青山台地の間の谷の最奥部、青山霊園の西側にも貝塚があることがその証拠である。東京湾に面した標高20mの東京タワーが建つ台地の東端からは、増上寺の前あたりに寄せ来る波が見えていたはずだ。縄文の風景。



Tokyo Earth Diving Map
中沢 新一『アースダイバー』増補改訂、pp.4–5、2019年、講談社。
初版では、大判の地図が切り取れるように折り込まれていた。

パティオ十番｜70年前

仙台坂上の交差点から北へ。緩やかに右に湾曲する一本松坂、大黒坂を下っていくと、正面にケヤキの高木が茂る広場が見えてくる。パティオ十番だ。ヨーロッパの旧市街にある広場にも似た、日本の都市ではあまりお目にかかれない空間である。ケヤキの木陰で憩う人びとにはどうでもいいことだが、道路に島状に設けられたこの広場は法律上は「道路」。公園ではない。この“道路”はまた、商店街組合の管理でさまざまな催し物にも利用され、賑わいを生んでいる。



区画整理後の麻布十番地区
西成 典久、齋藤 潮「都市広場をめぐる石川栄耀の活動に関する研究」より

パティオ十番。西側の大黒坂より見る。（撮影：大森 晃彦）

麻布十番商店街は空襲で大きな被害を受け、戦後いち早く区画整理事業が施行されて、そのなかでパティオ十番は生まれた（昭和27/1952年に完成したときは、ただ広いだけの簡易舗装だったが）。現在のかたちに整備されたのは昭和61（1986）年のこと。パティオ十番の先の道路は、緩やかに左に湾曲して東側の幹線道路（放射一号線）へ向かう。これも計画されたものだ。通常なら大黒坂がそのまま真っ直ぐに抜けるかたちだろうが、この計画によってここにしかない都市空間が生まれている。都市計画家、石川栄耀の思想。

江戸切絵図と陸軍参謀本部地図｜171年前・138年前

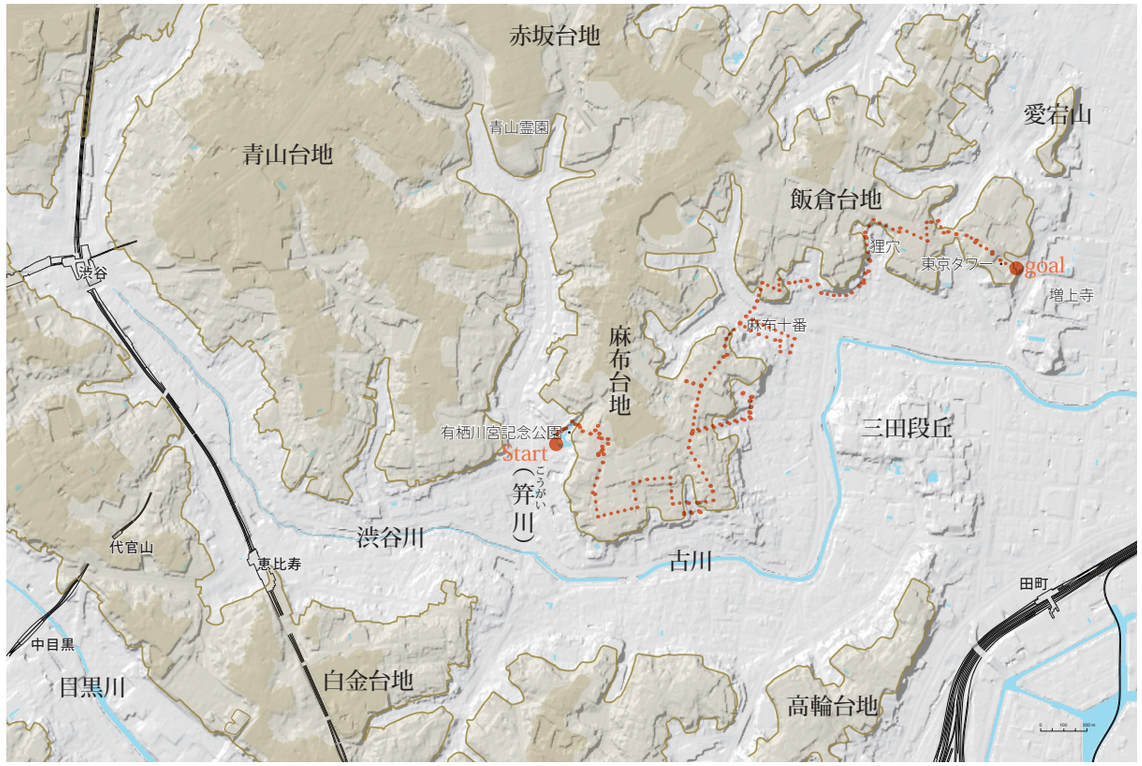
切絵図とは、大型の地図の大絵図に対して地域別に分割した小型の地図のこと。江戸時代の後期に大量に流布した。その代表が嘉永（1848–54）から安政（1854–60）にかけて刊行された近江屋吾平（近吾堂）と尾張屋清七によるふたつの切絵図である。近江屋の方がより詳細だが、現在、切絵図としてよく目にするのは多色刷りの尾張屋の方だ。尾張屋板にはいくつか工夫がある。川、道路、神社仏閣、町家、空き地や畑が色分けされ、武家屋敷は家紋がある上屋敷、■が中屋敷、●が下屋敷と分類されている。文字の頭の方向が表門の位置である。

ちなみに、散歩の達人、永井荷風はこの切絵図を片手に散歩に出かけていた（永井荷風『日和下駄』1915年、初山書店、1999年、講談社文芸文庫）。荷風は麻布区市兵衛町（いちべいちょう）1丁目（現在の六本木1丁目、泉ガーデンの東側）に、大正9（1920）年、ペンキ塗りの自邸を新築し、「偏奇館（へんきかん）」と名付けた。昭和20（1945）年の東京大空襲によって焼失するまでの25年間居住した。

もうひとつの地図は、明治9–17（1876–84）年につくられた陸軍参謀本部による5千分1東京図測量原図（国土地理院蔵）。色彩豊かな地形図で美術的価値も高い。これは（一財）日本地図センターによるスマホアプリ「東京時層地図」で閲覧できる。同じくスマホアプリの「大江戸今昔めぐり」では切絵図と今の地図を行き来できる。現代のまち歩きは、スマホを片手に出かけることになるようだ。

切絵図の「●南部美濃守」とある旧盛岡藩主南部美濃守の下屋敷の一部が現在の有栖川宮記念公園である。この地は明治29（1896）年に有栖川宮の御用地に、大正2（1913）年に高松宮御用地となり、昭和9（1934）年に公園として整備された。有栖川宮御用地となった当時、有栖川宮邸は麹町（当初は霞ヶ関一丁目）に建設されており、御用地には宮邸は建てられていない。

トウキョウ建築まち歩き［麻布・飯倉］は、有栖川宮記念公園の広尾口からスタート。
麻布台地の外周部と谷筋を巡り、低地の麻布十番を回遊。
飯倉台地の南側の低地、狸穴（まみあな）から急坂を登り飯倉台地へ。台地東端の東京タワーの先の芝公園がゴールです。



古川流域の地形。薄いベージュの塗りを囲む線は標高20mの等高線。濃いベージュは標高30m。次頁とともに国土地理院基盤地図情報をもとに作成。

『東都麻布之絵図』戸松昌訓、板元：尾張屋清七、嘉永4（1851）、国立国会図書館デジタルコレクション（https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1286665）

『麻布広尾辺絵図』（近吾堂板切絵図 9）、高柴三雄、版元：近江屋吾平、嘉永2（1849）年、東京都立図書館「TOKYOアーカイブ」（https://archive.library.metro.tokyo.lg.jp/da/top）

0 100 200 m
縮尺 1/7,500

六本木駅
六本木交差点
六本木ヒルズ森タワー・
（森ビル、MPD、入江三宅設計事務所、
ジャン＝ミシェル・オトニエル、2003年）
テレビ朝日本社
（槇文彦、2003年）
国際文化会館
（前川國男、坂倉準三、吉村順三、1955年）
旧岩崎邸庭園
区立六本木中
区立六本木高校
区立南山小
東洋英和女子学院小学部
東洋英和女子学院中学・高校
毛利庭園
フィリピン
ロアビル
ロシア
ウルグアイ
ルーマニア
ラオス
中国
南アフリカ
ジンバブエ
アフガニスタン
アルジェリア
ブルガリア
ベラルーシ
ウクライナ
ベトナム
ルクセンブルク
ドイツ
ポーランド
ハンガリー
ベルギー
ブラジル
ペルー
ボリビア
ニカラグア
ホンジュラス
パナマ
コロンビア
エクアドル
ベネズエラ
ガイアナ
スリナム
ウルグアイ
パラグアイ
ボリビア
チリ
アルゼンチン
ルーマニ

■麻布台地

有栖川宮記念公園
西側の広尾口を入ったところは大きな池を巡る池泉回遊式の日本庭園。東側の斜面を小広場と遊歩道でつないで矩形の洋風広場に至る。
笠間浅野家下屋敷、南部家下屋敷、有栖川宮御用地、高松宮御用地を経て、昭和9（1934）年に公園となった。

有栖川宮記念公園西側の最も低い位置にある広尾口。

北西側を流れる渓流。

池を巡る日本庭園。

南部坂
有栖川宮記念公園南側の坂。
赤坂にも南部坂がある。これは明暦2（1656）年、南部家と浅野家との間で屋敷の取り替えが行われる以前、赤坂に南部家の中屋敷があったため。
忠臣蔵の名場面、討ち入りの前日の「南部坂雪の別れ」は赤坂の南部坂。（討ち入りは、元禄15/1702年12月15日未明）

有栖川宮記念公園広尾口前より見る。

麻布南部坂教会（設計：W.M.ヴォーリズ、1933年）。
南部坂に面する。左奥はドイツ連邦共和国大使館。

東京都立中央図書館
（設計：第一工房、1973年）
有栖川宮記念公園内にある。昭和48（1973）年に、都立日比谷図書館の蔵書を引き継いでこの地に開館した。蔵書数は国内の公立図書館では最大級の約221万冊を所蔵しており、このうち、新しい図書を中心に約36万冊を開架している。

東側外観。

ドイツ連邦共和国大使館（設計：マーラー・ギュンスター・フクス設計事務所、日建設計、2005年）。外付けブラインドが特徴。

釣堀坂
麻布台地の谷を横断する坂。

本村町貝塚
縄文時代前期の貝塚。ハマグリやサルボウ（アカガイに似た二枚貝）など海水産の貝殻があり、この近くまで海水が入り込んでいたことを示している。

ヨーロッパハウス（設計：ADPI Ingénierie、大成建設、2011年）。
駐日欧州連合（EU）代表部が入っている。

■麻布台地から低地（麻布十番）

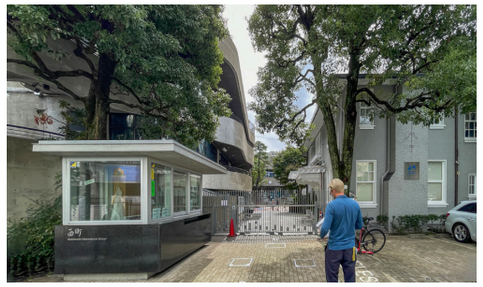
鶯啼居（設計：山岡嘉彌、2021年）。薬園坂のこの場所にあった町家の店蔵を集合住宅の一画に組み込んで保存している。

元麻布ヒルズ（監修：内井昭蔵、2002年）。
特徴的な外観のフォレストタワー（地上29階）と、瓦屋根の低層のフォレストテラスイースト・ウエストの3つの建物で構成される集合住宅コンプレックス。敷地の多くが緑に覆われている。

ハリス記念碑。

善福寺
安政6（1859）年に下田から江戸にやってきたアメリカの公使ハリスが公使館と住居としたのが善福寺だった。文久3（1863）年に水戸浪士の焼き討ちにより使っていた書院などを焼失した後は、本堂、開山堂などを使用していた。明治8（1875）年に築地の外国人居留地に移転。

安藤記念教会（設計：吉武長一、1917年）。大谷石の外壁。



松方ハウス（西町インターナショナルスクール本部館、設計：W.M.ヴォーリズ、1921年）、**西町インターナショナルスクール**（設計：鈴木エドワード、1985年、1986年、1997年）

在日オーストリア大使館（設計：槇文彦、1976年）。
麻布台地と低地の麻布十番商店街を結ぶ暗闇坂に面して建つ。

暗闇坂。

麻布十番商店街
善福寺の門前町として江戸時代から栄え、明治期には神楽坂と並ぶ繁華街として知られるようになった。豆源、浪花家、紀文堂など、戦前からの老舗がある。

豆源（豆菓子）。

パティオ十番
昭和27（1952）年に区画整理事業で生まれた。現在のかたちに整備されたのは昭和61（1986）年。法的には道路の扱いだが、通常の維持管理は麻布十番商店街が行っている。パティオ十番が生まれた背景には、「都市の価値は賑やかさにある」とした都市計画家、石川栄耀の思想があった。

パティオ十番を東より見る。

きみちゃん像。

浪花家（たいやき）。

■低地（狸穴）から飯倉台地

狸穴公園と虎ノ門・麻布台プロジェクト
麻布狸穴町は古川から飯倉台地に上がる谷筋にあり、マンションや戸建住宅が多くある。
狸穴公園の背後にそびえる超高層ビルは、虎ノ門・麻布台プロジェクトA街区のメーンタワー。敷地は昭和5（1930）年に竣工した旧逓信省貯金局庁舎が建っていた場所。高さ325.19m、地上64階、地下5階で、2023年に竣工・開業予定。

外務省飯倉公館、外交史料館
（設計：吉田五十八、1972年）
正面右側にある外交史料館は、幕末以来の日本の外交史料を整理・公開している。

聖アンデレ教会（設計：香山壽夫、1996年）

聖オルバン教会（設計：アントニン・レーモンド、1956年）

霊友会釈迦殿（設計：竹中工務店、1975年）

雁木坂

ノアビル（設計：白井晟一、竹中工務店、1974年）飯倉交差点に面して建つ。

東京タワー（日本電波塔、設計：内藤多仲、日建設計、1958年）
高さ333m。GLは海抜18m。

（6–8頁の写真 撮影：大森 晃彦）

——

ナビゲーター：大森 晃彦（建築メディア研究所代表、東京理科大学非常勤講師）

——

発行　日本建築学会 建築文化事業委員会
発行日　2022 年 10 月 29 日
© 日本建築学会 建築文化事業委員会 2022
不許複製

——

建築文化週間 2022
主催　日本建築学会
後援　日本建設業連合会、日本建築家協会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会
協賛　大林組、鹿島、清水建設、大成建設、竹中工務店、佐藤総合計画、日建設計、日新工業、日本設計、三菱地所設計、山下設計、NTT ファシリティーズ